

ID No.	1032
研究課題名	難治がんに対する複合的がん免疫療法とプレシジョン医療の開発研究
研究代表者	遠山 育夫(滋賀医科大学・理事)
研究組織 受入教員 研究分担者	<p>釣田 義一郎(東京大学医科学研究所・講師)</p> <p>高野 淳(東京大学医科学研究所・特任講師)</p> <p>寺本 晃治(滋賀医科大学・特任講師)</p> <p>湯地 晃一郎(東京大学医科学研究所・特任准教授)</p> <p>Tsevegjav Bayarbat(滋賀医科大学・大学院生)</p> <p>安井 寛(東京大学医科学研究所・特任准教授)</p> <p>Zhu Ming(滋賀医科大学・大学院生)</p> <p>醍醐 弥太郎(滋賀医科大学・教授)</p> <p>Regina Wachuka Mbugua(滋賀医科大学・大学院生)</p>
研究報告書	<p>・難治がんに対するがんペプチドワクチンおよび複合的がん免疫療法とバイオマーカー開発 複数の難治固形がんで高頻度・高レベルに発現するoncoantigenを同定してその臨床応用に向けた機能解析を実施した。また複数のがん関連分子や免疫チェックポイント分子につき、発がん機構に関する詳細な機能解析やバイオマーカーとしての検証、がんワクチン療法の適応がん種拡大や複合免疫療法の開発に向けた検討を行った。これらの研究成果の一部については、第79回日本癌学会総会(9題)、2019米国癌学会(AACR:2題)、第65回日本人類遺伝学会大会(6題)、第18回日本臨床腫瘍学会学術集会(6題)、文科省新学術領域研究・先端動物支援プラットフォーム・若手支援技術講習会ワークショップ(2題)、文部文科省新学術領域研究・コホート生体試料支援プラットフォーム・若手支援研究成果発表会(3題)等で発表した。がんプレシジョン医療の開発に向けたバイオマーカー研究を進め、国際学術誌に論文発表した(1報:成果発表参照)。</p>